

私は、4月27日から5月4日まで非核の政府を求める京都の会から国連NPT（核不拡散条約）再検討会議日本原水協要請代表団の一員として送り出していただきました。

訪問先のワシントンやニューヨークで多くの方と交流し、国連各国政府代表部へ要請に行かれた方のお話を聞くなかで、私たちの願い「核兵器廃絶」はまさに世界の人々共通の願いになりつつあることが実感できるツアーでした。

唯一の被爆国・日本が一日も早くアメリカの核の傘から離脱し、非核の政府を実現することが、共通の願いを実現する早道であり、不可欠ではないかと痛切に思いました。

私のNPT訪問記は、最初に「日誌」から入って、あとで「印象」を述べ、最後に「非核の会現地交流会メモ」を添付してNPT報告とさせていただきます。

4月27日（水）

成田空港は、連休前倒しの人たちなのだろう大混雑だった。もう少しで飛行機に乗り遅れるところであった。

今朝は、伊丹空港9時30分発、羽田着10時35分。羽田からリムジンバスで75分かけて成田へ。バスでは同じ第1グループ（27日出発組）の市教組・山田敬子副委員長と乗り合わせて心強かった。集合場所の第一ターミナルビル4階出発ロビーGカウンターに着いたのは12時20分。集合時間まであと40分。すでに多くの方が居られた。非核の会の水谷さんや斎藤さんも居られた。コーナーの隣にビューフェがあり、そこでカレーライス注文し簡単な昼食を済ませた。

私は、あらかじめワシントングループの9組あるうちの1組長に命じられていたのですが、午後1時に召集がかかり、組メンバーの集合確認と資料渡しを命じられた。

集合時間になっても姿を見せない方がお一人、笠原さんと二人で探し回る。遅れること30分、やっと来られた。旅慣れておられるのか、私たちがモタモタしているうちに彼は搭乗手続き、荷物預けをテキパキされていた。私と笠原さんは安堵感で短時間のお茶をして搭乗口へ向かった。機中の人になったのは離陸15分前であった。

ノースウエスト機は、定刻15:20に飛び立った。機中で日本原水協のガイドブック「参加者のみなさんへ」にはじめて目を通す。途中、機内で眠る人が多かったが私は眠れなかった。10時間50分かかって北米大陸中央のミネアポリスに到着。現地時間は27日の午後0時10分。ここで2時間ほど待機してワシントン行きに乗り換えることになる。

ミネアポリス空港で入国審査。事前に聞いていたが、入国審査は異常に厳しい。入国目的に答えるだけでなく、右手人差指の指紋をとられ、顔写真も撮影され、上着を脱ぎ、靴も脱ぎ、ベルトや鍵や小銭の金属類をすべて出し、しかもボディチェック、手荷物検査も通過してはじめて入国が

アメリカ合衆国

(The United States of America)

首都：ワシントン D.C (約 61 万人)

面積：962 万km² (日本 38 万km²)

東西 4800km、南北 3000km

人口：2 億 8142 万人

(ヨーロッパ系白人 80%)

アフリカ系黒人 12%

アジア系 3%、インディアン 1%)

言語：英語 (公用語) スペイン語、フランス語

宗教：プロテスタント 53%、カトリック 26%

時差：西海岸 -17H、-16H(サマータイム)

中部 -15H、-14H(サマータイム)

東部 -14H、-13H(サマータイム)

4月27日

成田 15:20 発 (約 10 時間 50 分)

ミネアポリス 12:10 着

ミネアポリス 14:30 発 (約 2 時間 15 分)

ワシントン 17:45 着

・ 18:30 ワシントン・プラザ・ホテル着

ワシントン組 (73 人)

私が所属した「4 組 11 人」

- ・ 笠原 弘章 (長野県教組)
- ・ 下村 昌子 (静岡自治労連)
- ・ 遠藤 正 (治安維持国賠静岡)
- ・ 佐藤真理子 (藤枝市平和委員会)
- ・ 粕谷たか子 (静岡高教組)
- ・ 井本 善久 (滋賀県原水協)
- ・ 長谷川長昭 (非核の会京都の会)
- ・ 福田 裕行 (神奈川生協労組)
- ・ 中村みずき (事務局、Japan Press)
- ・ 金森 暁世 (事務局、Japan Press)
- ・ 水谷 辰也 (事務局、原水協)

許可された。アメリカは何をこれほど恐れているのか。

今日の目的地へまだ2時間強飛行機に乗らなければならない。何と広い国土だ。ワシントンには3つ空港があるがその内の一つ「ロナルド・レーガン空港」に着陸。国内専用空港とのことでこじんまりしたおしゃれな空港である。入国審査をすでに済ませているのでスムーズな到着手続き。ここでまた時計の時間調整、27日18時を1時間進めて19時に。

空港には宮崎さゆりさん（アメリカで環境問題のNGOで活躍されている）とデニス・ネルソンさん（ネバダ核実験場近くで被曝）の出迎えを受けた。空港からバスで15分ほどでワシントン・プラザ・ホテルに到着。ホテル到着後、食事が用意されていないので、各組ごとに勝手に食事をしてきなさいとの指示。以後、アメリカ滞在中の食事は朝のパンとコーヒーだけの極めて軽い「食事」以外は、すべて自前で食事することになる。私たちの組には事務局兼通訳の中村さんと金森さんがおられるので心強い。タクシーでチャイナタウンまで行った。みなさん初めてのワシントンなので店選びに迷うが、結局広いハンバーガーショップに入る。私のテーブル5人はシーフードドリアらしきメインディッシュとハンバーガー、そしてサラダバー、ビール（ハーフ&ハーフか？）を注文する。何とすごいボリュームで食べきれない。一人前で二人分はある。

私と副団長の井本さんは、夜9時から組長会議があるため先に席を立ちホテルへ戻る。以後5月2日まで毎朝組長会議が持たれた。ともかく今回の要請団の日程は、大まかなところは決まっていたが、細かな行動は当日朝にならないと分からないが多かった。

4月28日（木）

朝からバスでワシントン見学。昨日空港に出迎えてくれたデニス・ネルソンさんがガイドとして一日案内してくれた。ネルソンさんはネバダ核実験場の風下100マイルのところまで育ち、家族がガンで次々死去し、自身も皮膚ガンで手術をされた被曝者で、今は故郷の被曝者支援・核兵器廃絶の運動に携わっておられる。

最初に訪れたのはワシントン郊外にあるスミソニアン・航空宇宙博物館別館。危険物検査、ボディチェックを受けた。ここには広島に原爆を投下したB29・エノラゲイが展示され、日本軍のゼロ戦が展示されていた。最新のミサイルまで展示しアメリカの航空機技術の歩み・力を誇示するもので、原爆投下による広島市民14万人が死去し、いまも

4月28日（木）

- ・9:00 ホテル出発
- ・スミソニアン・航空宇宙博物館
- ・ホワイトハウス、ラファエツクエア
- 24年間座込みのビショツトさん激励
- ・ベトナム戦没者メモリアル
- ・昼食→オールド・ポスト・オフィス・パビリオン
- ・インディアン博物館
- ・リンカーン記念館、ワシントンメモリアル見学
- ・夕食→スーパーで惣菜を買込んで自室で

デニス・ネルソンさん（61歳）の話

‘46年から’47年の間は太平洋で核実験をしていた。’51年にトルーマン大統領がネバダを核実験場にすることを決めた。’51年から’62年の間で数百回の核実験をやった。その間地上に死の灰が降り続いた。私の生まれ育ったのはセントジョージでネバダから100マイル離れた風下に位置していた。

当時、政府は「何の危険もない。被害もない」と言っていた。私たちは政府を信頼していた。あとで分かったことだが、当時厚生省の役人が調査に来ていたが、彼らには「毎日、シャワーを浴びること、地元の野菜を食べるな」と注意をしていた。このような注意を私たちにもしていたら、私たちは被害を受けていなかっただろう。

私は弟と子どもの頃、よく外で寝ていた。シーツ一枚で、そのシーツは一週間使いっぱなしであった。放射能がいっぱいかぶっていただろう。後に放射能被害の本を読んで、私たちの街が汚染されていることを知った。

私の家族を襲った最初の被害者は母であった。’66年47歳、脳腫瘍で亡くなった。’68年弟も発病した。いままだ生きているが……。私は皮膚ガンで手術を2回した。’80年父親が肺ガンで65歳で亡くなった。父はタバコを吸っていなかったのに……。妹は’82年にガンで40歳で亡くなった。

私は妹の死を契機に精力的に研究し、活動を始めた。核兵器の恐ろしさを伝え、不必要を訴えはじめた。

風下の私たちは、’82年に集団訴訟を起した。私たちは13種のガンを補償対象と認めさせた。しかし、ごく実験場に近しい地域だけであった。5万ドルから50

苦しんでいる多くの方がいることを連想させる説明板はなかった。

ワシントン市街に戻る途中、ポトマック河畔の桜はすでに葉桜になっていた。京都と気候が変わらないようだ。3日後、ニューヨークへ行ったが、そこではまだ桜の花びらが少し残っていた。ペンタゴンの横を歩いてホワイトハウスに向った。ホワイトハウス正面のラファイエット広場で24年間核兵器廃絶を訴え続け座り込みをされているビシオットさんを激励・交流した。その後近くにあるベトナム戦没者メモリアルウォールへ徒歩で向った。アメリカはベトナム戦争で58万人のベトナム人を殺害したが、一方アメリカがこの戦争で死亡した5.8万人の名前を刻んだ巨大な記念碑（壁）である。記念碑の前に所々花輪・花束が添えられていた。

昼食は、ホワイトハウスから徒歩10分程の集合商業施設（旧郵便局）で。ここでも危険物検査、ボディチェックがあった。単なるレストラン、グッズの商業施設なのに。若者であふれていた。私はこの見上げ物店でブッシュ大統領と「記念撮影」をした。

昼食後は、インディアン記念博物館へ行く。4階建の立派な建物。原住民（インディアン、イヌイト）の生活、文化を紹介していた。とくに鮮やかな絵画・装飾物には驚いた。こんなすばらしい文化を持っていたのかと。コロンブス以降の原住民迫害史については目につかなかった（他のメンバーは見つかったと言っていた）。2階のパソコンが設置されている資料室から自宅へ、絵葉書を2通メールで送った。係りの人が日系アメリカ人で操作を丁寧に教えてくれた。

次に向ったのはリンカーン記念館。ここにはただ巨大なリンカーン大統領が椅子に座った5.8mの白い大理石像（教科書によく掲載されている）があるだけ。小学生・中学生をはじめ一般の観光客であふれていた。

リンカーン記念館に向かい合ったかたちでワシントンメモリアル（塔）169mが立っている。

待機していたバスに乗り込みホテルへ帰る。

さて夕食の心配である。他の組は、近くの手ごろなレストランを探しに向った。わが組は、近所のスーパーで惣菜、酒屋でビールを買い込み、ホテルの私の部屋で宴会としゃべり込んだ。組メンバーと平和新聞記者を加えた8人で。

4月29日（金）

時差ボケと昨日の強行日程が重なり、昨夜も熟睡できなかった。体調不良。今朝は10時30分出発なので、朝の軽

万ドルの範囲で。政府は上告し、私たちの訴えは却下された。責任は国にはないとの判断であった。

ネバダでの核実験による被害者数はまだ分かっていない。広大な地域に及んでいる筈である。国立科学アカデミーで調査を始めた。

ブッシュ大統領は、いまネバダで核実験を再開しようとしている。



コンセプト・ビシオットさん（61歳）

ホワイトハウス正面、ラファイエット公園内に24時間、年中無休で反核運動をされている。立て看板を2枚掲げ、日差しの強い真夏日も、厳冬の雪の日もホワイトハウスを見据えて、今年で24年目。「核兵器がこの地球上から廃絶されるまで続けるつもり。私はここで死んでも構わない」と。今ではビシオットさんを支える全米組織（プロポジション・ワン）が出来ている。

ポトマック河畔の桜

太平洋戦争勃発時にいっせいに伐採された。今ある桜は戦後植樹されたもの。

4月29日（金）

- ・10:30 ホテル出発、官庁街をパレード
- ・11:00 ホワイトハウス
署名活動
- ・11:45 ナショナル・プレス・クラブへ
プレス・クラブ 2階レストランで昼食
- ・13:00 記者会見
- ・15:00 マルチン・ルーサー・キング図書館
- ・17:30 リーダーシップ・ミーティング
- ・19:00 ヒースアクション主催交流会

食後部屋でゆっくり過ごす。

ホテルからホワイトハウスまで徒歩。メンバー73人は隊列を組んでワシントンのアメリカ政府官庁街をパレードした。日本から持参したのぼり、ゼッケン、横幕、ギター演奏付。中には途中出会った人に「プリーズ・サイン、ノーモア・ヒロシマ、ナガサキ、ノーモアヒバクシャ」を訴える人もいた。アメリカ人母娘がこの訴えに答えていた。

ホワイトハウスに着いて、署名活動を始めようとしたところ、警官2人が来た。しかし、署名用紙を示し、約1時間70人が散らばって署名活動をするのを伝えたところ、OKが出た。ホワイトハウス前は、修学旅行らしい小・中・高校生の集団や観光客、ビジネスマンや役人らしい人など様々な人が行き来している。

私は、当初、長野県教組が用意した横幕を持っていたが、しばらくして勇気を奮い起こし、果敢にも署名活動に加わった。「プリーズ・サイン、ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモアヒバクシャ」と最初は小さな声で、しばらくして叫びながら……。20分間ほどで6人が応じてくれた。アメリカ人だけでなくフランス人の二人連れも署名してくれた。サインに応じてくれた人にバッジ「なくせ核兵器」をプレゼントした。京都・河原町三条での憲法署名より成績がいいではないか！ ヤッター！ やれば出来るではないかという充実感を味わった。

私は、午後からのナショナル・プレス・クラブでの記者会見に参加するため、署名活動を20分早く切り上げた。あとで聞いた話だが、アメリカでは街頭での「署名活動」という活動ジャンルはないそうだ。

ナショナル・プレス・クラブはホワイトハウスから徒歩5分ほどのところにある。クラブ食堂で昼食をとった。

アメリカの反核平和市民グループが準備した初めての記者会見とのこと。ワシントンというアメリカの統治・行政の中心地にあるナショナル・プレス・クラブで、われわれ日本からきた要請団が記者会見できるということは特筆すべきことではないかと思う。ただ、残念なのは現れた地元記者は、ワシントンポストだけであったことである。記者会見場は狭いので、要請団から21人だけの参加した。

記者会見では要請団から団長の木村勇団長（福岡原水協）が訪米の目的やブッシュ政権への注文などを述べたあと、中本康雄医師（広島原水協）が広島原爆被害の実態と後遺症について述べられた。あとアメリカの反核平和市民グループから核廃絶の訴えやNPT会議について話をされた。

記者会見を終えたあと近くにあるマルチン・ルーサー・



↑屋上に銃を構えた警備兵がいる

他のグループも抗議行動

ホワイトハウス前では「フランスは北アフリカから出て行け」と訴えるトーゴランドの人々や、4年前から毎週金曜日にホワイトハウス前でイラク戦争反対を訴えている3人組もいた。

ホワイトハウス前での署名活動

約1時間でわが組が集めたのは41筆。全体では250筆余り。

記者会見場にきた人たち

ワシントンポストの記者
エレン・トーマス（プロポジション・ワ）
ジョンスタイン・バック（ヒロシマ・ナガサキ平和委員会）
ピーター・カズミック（アメリカ大学教授）
デニス・ネルソン（被曝者）
ダニエル・エルズバーク（元国務省職員）

※記者会見感想

・国務省職員時代にベトナム戦争反対を主張し退職されたダニエル・エルズバーク氏が、説得力のある話をされたあと「米軍が日本に核兵器を持ち込んだ証拠があるのか？」と質問された。これに対して木村団長が的確な説明をされてエルズバーク氏は納得されたようです。日常的に反戦・平和を主張されている人でも「日本への核持ち込み？」に驚いた。
・アメリカの反核・平和市民運動が、プレスクラブの会場を使って記者会見を設定できるまで「認知」されてきたことは大きな前進だが、まだ「弱い」という印象を持った。

※マルチン・ルーサー・キング

黒人公民権運動の指導者。1965年に暗殺された。

キング図書館へ徒歩で向った。図書館で若い女性（アレクサンドラ。2年前に大学を卒業。昨年の原水禁世界大会に参加）が「広島・長崎ネバーアゲイン写真展」を開催しているので、見学と彼女への激励のためである。写真は昨年彼女が広島と長崎を訪れた際の記録写真で、記念品もあった。要請団から彼女に要請団が署名活動の際に使用していた写真パネル2セットと原爆写真集1冊を贈呈した。

MLK 図書館から徒歩でホテルまで戻った。この頃にはもう私は完全に疲れ切っており、今日の夕方からの行事—リーダーシップミーティング、夜のピースアクション交流会をキャンセルし、ホテルで休息をとることにした。

4月30日（土）

朝6時にモーニングコール。6時45分にスーツケースを一階ロビーに持って降りる。朝食はコーヒー一杯でこれからニューヨークへ向う。

6時45分に一階ロビー全員集合の連絡をしていたが、わが4組の2人が降りてこずあわてた。チャーターバスでワシントン駅に20分で到着。駅構内はなぜか撮影禁止。最近建て直されたばかりという豪華な建物である。ショッピングモールとなっている。

特急列車の1両貸切で8時20分に出発。車中いろいろな打合せや語らいで4時間かかったものあつと言う間のニューヨーク到着だった。途中フィラデルフィアに停車。車窓の風景はまだまだ人間の手の入ってない原野が多く残っている様子であった。昼食に車内売店で日清カップヌードルを2ドルで購入した。

ニューヨークのペンシルバニア駅からセント・ジョン・ザ・ディバイン大聖堂へ専用バス。雨のせいか渋滞で通常30分ほどの距離なのに1時間もかかった。大聖堂にはすでに日本からのNP T会議要請団がほとんど集まっていた。当然だがここで京都の平和委員会の戸田さん、宗平協の酒井さん、日本共産党の原さん、さらに非核の会の笠井さんや斎藤さんなど顔見知りに出会い、無性になつかしかった。

全員に翻訳器が渡され、約3時間のシンポジウムが始まった。最初は大聖堂の牧師さんの歓迎あいさつ。続いてコーラ・ワイスさんのあいさつ。コーラ・ワイスさんは1999年ハーグ平和大会の時の議長で平和のための10原則のトップに「紛争を平和的に解決するため、各国は日本国憲法9条を採用すべき」と盛り込むことに力を尽くされた方。

パネリストにはエジプト国連代表のマゲド・アブデラジズさん、アボリション2000全米コーディネータのジャクリ



↑ ナショナル・プレスクラブ 記者会見場

リーダーシップミーティング

アメリカの反核市民組織が、私たち原水協からの派遣団と原水禁からの派遣団の双方を招き交流する趣旨で計画されていた。しかし、原水禁からの出席はなかったとのこと。

ピースアクション交流会

これもアメリカの反核市民組織「ピースアクション」が準備した私たちとの交流会でした。

4月30日（土）

- ・7:00 ホテル出発
- ・8:20 ワシントン駅発特急列車
- ・12:20 ニューヨーク「ペンシルバニア駅」到着
- ・13:30 セント・ジョン・ザ・ディバイン大聖堂
公開シンポジウム
- ・17:00 ホテル「シェラトン」着
- ・18:10 メトロポリタン美術館へ
- ・22:30 ホテル帰着

大聖堂での公開シンポジウム

ここには日本からきた私たち原水協からの派遣団とともに被団協、生協連、ピースボート、高齢者NGOなどとともに翌日の集会に参加予定のアメリカ市民ら850人が集まった。

あいさつ

コーラ・ワイス

(1999年ハーグ平和大会議長)

パネリスト

・マゲド・アブデラジズ

(エジプト国連代表)

・ジャクリーン・カバソ (アボリション

2000全米コーディネータ)

・ジョセフ・ガーソン

(アメリカフレンズ奉仕委員会)

ーン・カバソさん、アメリカフレンズ奉仕委員会のジョセフ・ガーソンさんの3人。話の内容は翻訳器の調子が不安定で十分聞き取ることは出来なかったが、印象に残ったことを列記します。①3人ともアメリカのNPT会議つぶしとも言える不当な態度に抗議する。②エジプト大使がイスラエルはIAEA査察を受け入れるべき。③アメリカは毎年400億ドルかけて核兵器開発を進めている。④日本被団協をノーベル平和賞候補に推薦した(ガーソン氏)。⑤今は暗いが必ず夜明けは来る。

パネラーの発言のあと、フロアーからの発言を求められた際に、3人目の発言者に京都宗平協の若い酒井氏が、挙手し謙虚でさわやかな質問をしたことは驚きであった。

シンポジウム終了後、専用バスでニューヨーク郊外にある宿舎・シェラトンホテルに向った。夜は自由時間となっており、私は組のメンバーと相談し夕食をホテル周辺で済まし、メトロポリタン美術館へ行くことにした。

夕食はホテル前の中華料理店へ4人で入った。メニューがよく分からないままで注文したところ、とんでもないもの一大盛の揚げソバ。量もさることながら油濃くって食べられたものでなかった。4人とも食べ残した。井本さんは2年間中国で日本語教師をしていた経験があり、中国語で店員と話をしていた。ホテル周辺のお店の看板は、ほとんどが中国語と韓国語であったが、食堂ではあまり英語を聞かなかった。

早めに済ませた夕食後、わが組の遠藤さん、佐藤さんの3人でメトロポリタン美術館へ向かった。ホテルは地下鉄7号線の終点にある。ここからニューヨークのど真ん中にあるメトロポリタン美術館まで、途中1回乗り換えて1時間15分かかった。美術館に着いたのは8時前。私たちは駆け足で回ったが、行けたのはエジプトとヨーロッパ絵画印象派までしか行けなかった。中近東、アフリカ、ヨーロッパ近現代、アメリカ、ギリシャ・ローマ、アジアなどは回れなかった。ともかく巨大な美術館であった。9時5分前に売店でガイドブックを買い求めたが、店員は9時が閉店のため、今品物を片付けたので売れないと断られた。

帰路も同じ地下鉄。ホテルに着いたのは10時を少し過ぎていた。同室の井本さんと遅くまで語り合う。

5月1日(日)

前夜もほとんど眠れなかった。

早朝7時半からの組長会議で、明日NPT会議初日に予定されていた各国政府国連代表部への要請行動が縮小され



↑ 公開シンポジウムでフロアから酒井氏発言

メトロポリタン美術館

イギリスの大英美術館、フランスのルーブル美術館とならんで世界の3大美術館のひとつと言われている。所蔵品200万点のうち4分の1が常設展示されている。私が行った土曜日は午後9時まで開館。通常は5時30分で閉館する。

セントラルパーク

東西800m、南北4kmにおよぶ巨大な公園である。マンハッタン島の中央に位置している。ここには池、湖、動物園、噴水、散歩道、グラウンド、劇場、美術館などがある。ともかく広い。メトロポリタン美術館はこの一角にある



↑ ニューヨーク大パレードの先頭

5月1日(日)

- ・9:00 ホテル出発
- ・9:30 国連本部着
- ・12:00 パレード出発
- ・13:30 セントラルパーク着
- ・14:00 大集会開会
- ・18:00 大集会閉会
- ・19:00 京都代表団と食事
- ・22:30 ホテル着

たとの連絡。要請受け入れに応じてくれたのが今のところ数カ国にとどまり、私も含めて当初選ばれていた要請メンバーの明日の予定が空白となりそうだ。

9時の専用バスでわが組は、国連本部近くのパレード集合場所に40分ほどで着いた。すでに通りのあちこちに警官が数十人単位でたむろしていた。パレードの集合が11時、出発が12時なので、それまで国連本部の見学に行くことにした。

国連本部前はすでに多くの人で長蛇の列。開館が10時なので、その時間になればこの列もはけるだろうと思っていたが、開館時間が過ぎて遅々として進まず、私は見学をあきらめた。パレードの出発地点に戻ろうとしたが、どうも身体がだるく、休みたくなり、国連本部前のカフェらしい店に入った。CoffeeはなくBeerを注文したが、しばらくして「貴方には売れない(私にはこう聞こえた)」と断られ、その店を出た。店内には警官らしい人物が数人いたが、なぜ断られたのか？

12時にパレードはスタート。広い通りは通行止め。日本でのような4列縦隊云々などと言わない。20mから30mはあると思える車道一杯に広がってパレード。私は先頭近くの京都グループに当初位置していたが、じっとしておられなく前後左右移動して、世界各国の集団に混じって楽しんだ。先頭に並んだこともある。一番派手だったのは、韓国伝統楽器・チャンゴの太鼓と踊りであった。彼らのうちの一人に聞くと、韓国から若者を中心に35人が来ているとのこと。スタート地点からセントラルパークまで太鼓と踊りを続けていた。アイルランドからおぼしきバグパイプ楽団も。ブッシュの仮面をかぶった道化師も終始愛想をふりまいていた。セントラルパークまでの3.2km、2時間弱、ニューヨークのど真ん中、見上げると首が痛くなる高層ビル群・摩天楼で「Abolition of Nuclear Weapons, Now」を叫び続けた。あとで聞いたのですが、世界30カ国から4万人の参加とのこと。

9.11事件後、ニューヨーク当局は、この種のしかも多国籍の4万人のパレードを認めてこなかったとのこと。今回も直前まで認められるかどうか微妙であったそうです。

大集会は、あたり前のことだがすべて英語で進められていたので、ほとんど内容が分からない。ときどき知っている単語と雰囲気理解するしかない。高草木原水協事務局長も秋葉広島市長も英語で演説した。ただし、被爆者は日本語での訴えであった。

集会終わりの頃、戸田京都代表団長にさそわれ、夕食を

パレード・1

11時頃出発地点に戻ってみるとすでに多くの人が集まっていた。明らかに非アメリカ人と思えるグループがあちこちに。日本人のグループも通常のデモツールに加え、よくまあこれだけ準備したなあと驚くビッグ横幕、デコレーション、着物、ギター、鐘や太鼓など。京都代表団の青年は新撰組のチョンマゲ、羽織・ハカマが強烈なアピールをしていた。出発前からそれぞれのグループがパフォーマンス。交流し合っていた。



↑ 国際ナース労組 (SEIU) の隊列

パレード・2

同じころざしを持った仲間が世界からのここに来ている。この時ほど英語が話せたら！と痛切に思った。アメリカ人かヨーロッパ人か分からなかったが、手書きのプラカードを持った隣りの人と話そうとしたが、続かない。途中からパレードに加わってきたジャーナリストとのしばらく単語だけで話していたが、これもすぐギブアップした。

パレード・3

私は、途中から足首が痛くなり、ビッコしながら歩くようになり、次々と追い抜かれてセントラルパークへたどり着いた。まさに怪我の功名そのもので、いろんなグループ、パフォーマンスに接することができた。

痛む足を引きずりながらセントラルパークへたどり着く。回りは知らない人—外人ばかり。京都グループをやっと探し出し、ここで座り込む。民医連から派遣された代表団員のお医者さんに診てもらう。診立て通り2時間も座り込んでみると、足首の痛みは治まってきた。

一緒にとろうということになり、京都代表団のペンシルバニアホテル近くの韓国レストランへ5人で行く。ボリュームたっぷりの焼肉とサラダにビール、ごはんもあった。やっと食事らしい食事でありつけた。割り勘で20ドルだった。彼らの多くはニューヨーク直行組であり、ワシントン組の行動に興味を寄せてくれた。

食事後、8時前なのですぐ近くにあるエンパイアステートビルに上ろうということになった。夜なのに長蛇の列。1時間近く待たされエレベータを途中乗り換えて登頂。あの9.11で倒壊した世界貿易センタービルがないので、今では再びニューヨークのノッポビルに。

帰りは、一人で地下鉄を途中乗り換えて帰る。かつてニューヨークの地下鉄は危ないと言われていたが、いまはそんなふうを感じなかった。昨年利用したロンドンやセントペテルブルグの地下鉄の方が、汚れていたし異様な雰囲気であったのを思い出した。ホテルにたどり着いたのは10半であった。

5月2日（月）

早朝会議で当初予定されていた各国政府代表部への要請は、結局スウェーデン、フランス、イギリスの3カ国にとどまった。わがワシントン組からは誰も要請に加われない。今日は一日フリーとなる。

私は組のメンバー5人と10時の専用バスで国連行に乗り込む。ところが着いたところは国連を通り過ぎたタイムズスクエア。公営バスに乗り換えて国連まで戻る。国連には30分ほど並んで入れた。一般見学者が入れるのは、一階ロビーと地下のショッピングセンターとレストランに限られていた。一階ロビーには今回始めて許可された日本被団協の「原爆被害写真展」が小規模だが展示されていた。あとで聞いたことですが、政府代表やマスコミ関係者など許可された人しか入れない地下ロビーでは、もっと規模の大きい「原爆被害写真展」が催され、大きな反響を呼んでいたとのこと。私は、ロビーに飾られていたアナン事務総長の肖像画の前で記念撮影をしたあと、地下へショッピングに。ここで娘や孫へのTシャツと私用のマグカップを購入。

1時間ほどで国連を出る。次の行き先は自由の女神像・世界貿易センタービル跡地（グランドゼロ）見学である。すでに昼食時であり、歩いてレストランを探す。10分ほど歩いて日本語で書かれた「ラーメン」店を見つけ、そこで昼食をとる。博多とんこつラーメンを注文した。ニューヨークへ来て純日本のラーメンを食べるとは思ってもいなか

パレード・4

メキシコのデアルバ大使は、国連本部近くでパレードを見ていて、感激して、大使館員とともに、そこからセントラルパークまで、いっしょに歩いた



↑ 国連本部前、筒を結んだピストル

エンパイアステートビル

自由の女神とともにニューヨークの顔となっている超高層オフィスビル。地上381m（塔の先までは413m）。展望台は86階（320m）にある。

5月2日（月）

- ・10:00 ホテル出発
- ・11:00 国連本部着
- ・12:30 ラーメン店
- ・14:00 サウスフェリー
- ・16:00 グランドゼロ
- ・18:00 ペンシルバニアホテル
- ・19:20 非核の会交流会
- ・23:30 ホテル着

タイムズスクエア

ブロードウェイと7番街が交差するあたりの名称。劇場街の中心。



った。とても美味しかった。日本人客が多かった。

この後、地下鉄でサウスフェリーへ行き、マンハッタン島とスタテン島との間を往復する連絡船に乗る。これは自由の女神を真近かに見るためである。乗船料無料で往復1時間の遊覧船観光が出来た。この時にはメンバーは井本さん、粕谷さんの3人になっていた。

このあと、地下鉄で2駅先のグランドゼロ、9.11事件で倒壊した世界貿易センタービル跡地へ行く。想像していたほど広いスペースではなかった。この敷地に地上417mの巨大ビル2棟があったとは思えないほどである。

グランドゼロを見学したあと、私は非核の会交流会へ出席するため2人と別れる。粕谷さんは青年交流会へ。井本さんはホテルへ帰られる。

地下鉄・ペンステーション近くのペンシルベニアホテルへ向う。昨日もここへ来たので何の不安もなくたどり着いた。待合せは19時であったが、18時に着いてしまった。近くのカフェでコーヒーを飲んで30分ほどして待ち合わせのホテルロビーへ。この待合せ場所でブラジルからきた老婦人2人と片言英語で世間話に興じる。次々といろんな人がホテル内ロビーを行き交うのを見て結構楽しんだ。

19:20頃にはほぼメンバーがそろい、近くの昨日京都代表団と食事した韓国レストラン・江西會館に場所を移す。

交流会での話に接して、はじめてNPT派遣団の全体像が把握でき、確信と更なる感動を持つことができた。

10時半近くまで続いた交流会のあと、今夜も一人でホテルまで帰ることになった。どうしたことか、今夜は出口を間違えてしばらくシェラトンホテルを探し回った。

ホテルに戻ると井本さんと遠藤さんが飲んでおられた。私は先程まで非核の会交流会で話されていた内容を少し話すと、「組員全員を呼べ！これはみんなに聞かせたい！」となり、すでに深夜0時近くなのに召集をかけた。来られたのは笠原さん、粕谷さん、佐藤さん、中村さん。7人で3時ころまで話し込んだ。明日は帰国の途につくので、みんながニューヨークへ来たことの意味を掴もうと必死に話し合った。これからの活動と展望も含めて……。これで確信を持ってNPT報告が出来る、と。

5月3日（火）

専用バスで空港へ。ニューヨークからデトロイトへ飛んで、そこから出国となる。

ニューヨーク空港で昨夜のことをワシントン組のメンバー全員に搭乗ロビーの待ち時間中に伝える。みなさん感動



↑ ワシントン官庁街で母子から署名

非核の会交流会出席者

- ・水谷辰也（事務室長）
- ・斉藤俊一（事務室次長）
- ・菊池定則（群馬）
- ・菅原利久（岩手）
- ・沢田昭二（愛知、NPT会議発言予定者）
- ・増田善信（東京）
- ・笠井亮（東京、日本共産党）
- ・石川勇吉（宗平協事務局長）
- ・西川征矢（全労連副議長）
- ・長谷川長昭（京都）

交流会ではずいぶん話はずみ、時間の経つのを忘れるほどであった。いずれの方も今回のNPT派遣の意義について手応えを感じ、大きな評価をされていた。同席したみなさんは、私がいままで新聞や雑誌でしか接することのできなかつた原水禁運動のベテランであり、核問題の権威ある方たちである。私がどうしてここに同席しておれるのか不思議な思いをしながらみなさんの話を聞いていた。すごい話がどんどん出てくるので、私はテーブルマットにメモをした。（メモは後ページに掲載）

5月3日（火）

- ・9:00 ホテル出発
- ・9:40 空港着
- ・12:40 空港発（1時間45分）
- ・14:25 デトロイト着
- ・15:25 デトロイト発（13時間）

してくれて、非核の会ホームページに内容を掲載して欲しいと頼まれた。

ニューヨークからデトロイトの機中、隣り合わせた40歳ぐらいの韓国女性に思い切って声をかけた。彼女の親戚が山形県にいてということで、日本語が少しでき、英会話も私と同じ程度で、英単語と日本語で語り合った。私が機中であるにもかかわらず、アリランの歌をハングルで歌うとおおいに喜んでくれた。また、バッジ「なくそう核兵器」をプレゼントした。

デトロイト空港での出国手続きは、入国時がわずらわしかったのに、いとも簡単であった。靴を脱いだり、上着を剥がされたり、小銭を取り出したりする必要はなかった。

5月2日から始まったNPT再検討会議は、当初からアメリカ政府のNPTつぶしのため成果をあげることは難しいだろうと言われていた。

私のはじめてのアメリカ訪問、世界の人と共通の課題を掲げた交流は、じつに感動的でした。訪問本来の目的—2000年の「明確な約束」の具体化こそ前進しなくても、また再検討会議が不調に終わったとしても、確実に「核廃絶」は世界の圧倒的多数派になりつつある、確実に世界は変わりつつある、アメリカも変わりつつある。必ずや「もうひとつの世界」を人類は見出すだろうという確信をいだきつつ、帰りの飛行機ではグッスリと眠ることができた。

5月4日（水）

・17:20 成田空港着

※今回の原水協要請団は、総勢804人。ネバダ経由、ハンフォード経由、サンフランシスコ経由、ワシントン経由さらにニューヨーク直行組などに分かれて行動し、後半の3日間をニューヨークに結集するという形態でした。

※原水協以外に被爆者・生協連で60人、原水禁・核禁会議・連合グループで60人、広島県の独自グループ20人、高齢者NGO10人、地球市民集会ナガサキから10人、その他市民団体関係、現地在住者などで1,000人の日本人要請団でした。

※核廃絶署名5,038,108筆を5月4日NPT会議場でドアルテ議長に提出。

まとめ/私のアメリカ・国連訪問印象記

1、アメリカの第一印象

イ、「この国は病んでいる」というのが私の第一印象でした。成田を発ってミネアポリス空港でのアメリカ入国検査は異常に厳しいものでした。まず、機内でテロとの関係を問う調査票の記入が強制され、検問ゲートで上着を脱ぎ、靴を脱ぎ、さらに小銭やキー、バッジ類を全部取り出し、さらにボディチェックを受けたうえで、右手人差し指の指紋採取、顔写真を撮影されての入国許可でした。

ブッシュ大統領は世界中の人が敵に見えるのでしょうか。孤立感と恐怖心でおののいているようです。唯一の超大国との自負を持っていながら、「テロの脅威」におびえ、他国を侵略している現実、世界の人々から非難されている現実が、ブッシュ大統領らをおびえさせているのでしょう。

まさに、「平和」があつてこそその「自由」であり「民主主義」、「人権」や「プライバシー」があることを実感させてくれた。

ロ、しかし、一方では「自覚したアメリカ人が増えてきている」との印象を受けました。

①デニス・ネルソンさんは、ネバダ核実験場の死の灰の被曝者ですが、家族が次々ガンで死去して行くのに遭遇し、疑問を感じ学習し、今では地元被曝者救援・連邦政府への補償請求、さらには核兵器廃絶運動に身を投じておられる。自らも皮膚ガンで二度の手術をさ

れている。②ビシオットさんは18歳でスペインからアメリカへ移住し、国連やスペイン領事館で働いたあと、ホワイトハウス前で「核兵器廃絶」を24年間も24時間、年中無休で座り込みで訴え続けておられる。③マルチン・ルーサー・キング図書館で「広島・長崎ネバーアゲイン写真展」を開催していたアレクサンドラさんは、2年前に大学を卒業し、昨年広島の原水禁世界大会に参加して、一念発起し核兵器廃絶NGOを友人と立ち上げた。④ジョンソン空軍基地に勤務していた時に反戦ビラを受け取って、今では反核・平和運動を家族ぐるみでされているビクトリーさん。⑤ホワイトハウス前で4年前からイラク戦争反対を訴え続けている3人組。⑥ワシントン官庁街やホワイトハウス前で、ニューヨーク市内でも積極的に核廃絶署名に応じてくれたアメリカ人が多くいた。⑦アメリカ主要単産・SEIUが原水協・全労連の世話をしてくれた。ニューヨークで大パレードにも核廃絶大横幕を掲げ参加した。⑧反核・平和グループが初めてワシントンのナショナルプレスクラブで記者会見をセットできるまでアメリカ社会で認知されてきた。⑨帰国後聞いたことですが、アメリカの世論調査で「核兵器不必要」が6割を超した。

これらの私が接した人たちとの交流で「アメリカ人も変わって来ている」との印象を強く受けました。

2、エノラ・ゲイなどに見る「カこそ正義史観」を感じた。

①スミソニアン航空宇宙博物館でのB29・エノラ・ゲイの展示は誇らしげであった。後尾に日本空軍のゼロ戦が展示されていた。説明板には原爆投下で第2次世界大戦を終了させたことは記述してあったが、広島市民14万人が死亡し今も被爆者が苦しんでいることには触れていない。私たちがエノラ・ゲイを見ているときに小学生の集団が見学に来た。同組の粕谷さんが流暢な英語で彼らに原爆被害について説明し出すと、どこからか警備員が飛んできて、説明停止と続けるなら退去させると命じてきた。私も小学生らに「なくせ核兵器」バッジをプレゼントしていたが、それらを引き取ることになった。②ベトナム戦争戦没者記念碑には5.8万人のアメリカ兵の名前が刻まれていた。いまま花輪や花束で飾られ、ここにも小学生や中学生らが多く教師に引率されて見学に来ていた。戦没者は勇者であり、アメリカ人の誇りなのだそうだ。③インディアン博物館で彼らアメリカ大陸原住民の伝統的な文化や生活様式などの展示がされていた。しかし、インディアンやイヌイットがヨーロッパから渡ってきた人たちに征服され、追いやられた歴史や説明についてはほとんど目立たないものであった。

私がワシントンの公的施設で見た主張は、アメリカの発展と力を誇示し、戦争被害者や迫害・抑圧された住民への思いやりはなかった。カこそ正義、勝利こそ正義の歴史観で貫かれていた。

3、被爆者・被団協にノーベル平和賞を！ に大賛成。

「被爆者・日本被団協にノーベル平和賞をと推挙した」は、公開シンポジウムにおいてアメリカンフレンズ奉仕委員会のジョセフ・ガーソンさんが言われた。核兵器被害を告発し続けてきた被爆者は、人類と共存できない兵器であることを世界に訴え続けてきたことは、ノーベル平和賞受賞に値する。人類に核兵器の恐ろしさを後世に伝えるために受賞すべきであると。今では「ノーモア・ヒロシマ」「ノーモア・ヒバクシャ」が世界共通語になるまでになっている。この人類への功績を受賞で報いたいと私も思う。

願わくば、被爆者生存中にノーベル平和賞が与えられ、核兵器廃絶が一日も早く実現することを！